

卒業式式辞

長く厳しかった冬も、柔らかな陽射しに春の訪れを感じさせる今日の佳き日、第61回北海道南幌高等学校卒業証書授与式を挙行するにあたり、公私ともにご多用にもかかわらず、南幌町長様、PTA会長様、同窓会長様をはじめ、ご来賓各位並びに卒業生保護者の皆様のご臨席をいただき、旅立つ若者の門出に花を添えていただきましたこと、高い席からではございますが、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。これまでお子様を育ててこられました皆様のご労苦に対し、敬意を表すとともに、本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

一三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

人生は選択の連続だと言われます。その都度、間違いのない選択をしたいところですが、未来がわからない私たちにはそれは無理な話です。

唯一、私たちができることは、自分がした選択がベストになるよう努力することです。

例えば、わが国には14,000を超える職業があります。その中でどれが一番かは確かめようがないので、自らの選択を信じ、ベストな職業になるよう努力するしかありません。

幸せはときには誰かの助けも借りながら、自らの力で未来を豊かにしていくことで実現するのです。

私たちは、その信念のもと、皆さんがタンポポの綿毛のように、フワッとどこへ飛んでいっても、その場所ですっかりと根を張り、花を咲かせることができるようにと指導してきました。南幌学やSDGsの探究学習はその練習でした。

思い出してください。誰かのためにとがんばったことは多くの人の心を動かすことができましたね。自分をいじめてはいけなかったね。

皆さんは、私たちの願いに十分に応え、着実に困難を乗り越える力を身に付けてきました。私たちは皆さんの成長を実感でき、教師冥利に尽きる日々を過ごせました。本当にありがとうございます。ぜひ、自身をもってこの学び舎を巣立ってください。

私たちはいつまでも皆さんの活躍を信じ、応援しています。

皆さんのたくましく成長した背中を頼もしく思いながら見送ります。

限りない可能性を秘めた卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、万感の思いを込めて式辞といたします。

令和四年三月一日

北海道南幌高等学校長 矢橋佳之